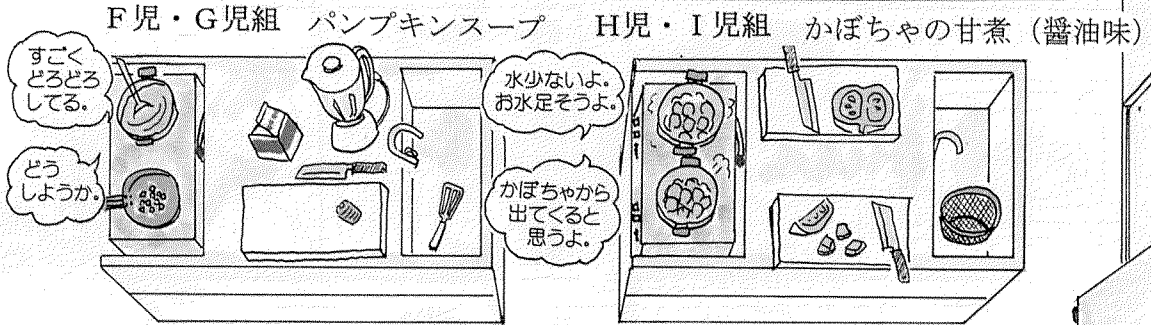
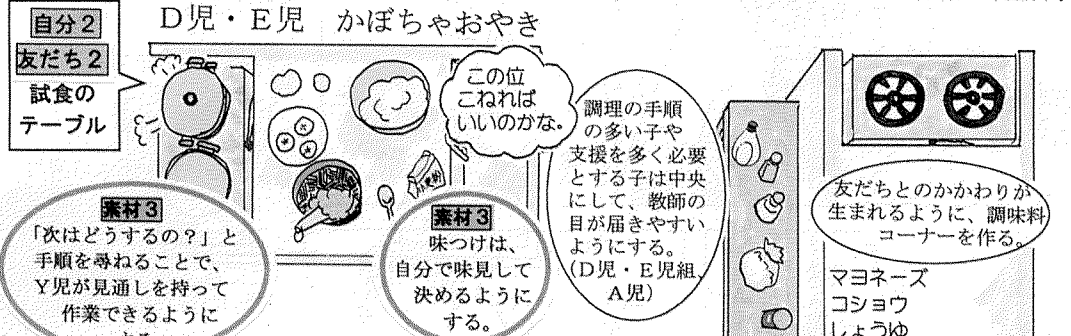


調理の場面 全体図 (家庭科室)

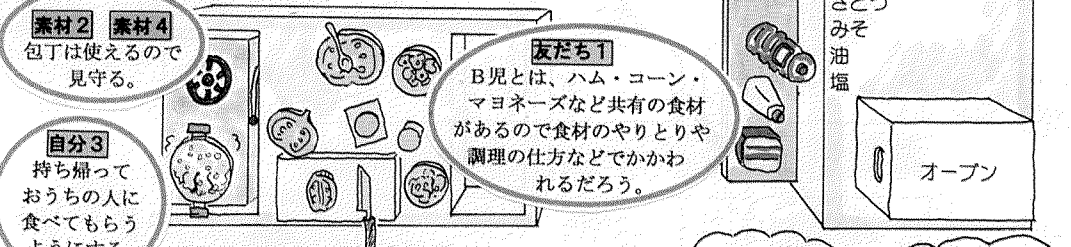
○ A児への手だてや支援 ○ 配置の手だて



J児 かぼちゃの甘煮 (塩味)



A児 かぼちゃサラダやき



B児 かぼちゃのマヨネーズあえ



K児 パンプキンパイ

C児 かぼちゃクレープ

電気器具は、通路を避け、端の台に据える。

前時の話し合いで、自分の作りたいものが友だちと同じなら、一緒に作ってもいいということに決まった。ねらいから考えて、担任は一人一人で作る方向で考えていたが、一人で作るか友だちと作るかを選択するのも自己決定の機会だととらえ、一人一人で作る活動は別に設定(「わたしのおやき作り」など)することにした。A児とB児の料理は似通っていたが、一人で作ろうという意識があったので、別々に作った。

調理の場面（3時間） 素材と自分とのかかわりをさらに深めるA児

初めて電子レンジを使う。

機械大好き
新しい物好き

使い方を教える。

時間を合わせてスタートを押して……

次何だっけ スタートだよ。

ええと トースター スタート

素材1
素材2

喜んで使うだろうな。使えれば自信になるかも。

ハムを切る。

かんがえてから……

細切りにした。

包丁は何度も使っているので声かけは安全確認だけ。

左手はネコの手だよ。

あとは見守る。

素材4

加熱したかぼちゃの中身をくりぬく。

あ、やぶけちゃった！

先生、やぶけちゃった。

う～ん

しまった！ここはA児が考えるよう問いかければよかった。

どうしたらいいと思う？

教師が解決してどうする…もったいない。

素材3

Bちゃんに皮をもらってそこに当てたら

友だちと自分とのかかわりを深めるA児①

ハムのパックを開ける。

……開かない。

同じ台のB児に気付く。

真剣

Bちゃん種とってんの？

手段① 様子をうかがう。

Bちゃん忙しそう。

先生も忙しそう。

ハムの切り方がね。

……だめか。

切れない。

手段② それとなく話を切り出す。

手段③ 包丁で切ってみる。

ねえねえ Bちゃんあけてくれない？

……だめか。

かくなるよは……

やっはり無理。

あ、Cくん困ってる。助けに行こう。

A児がC児を助けているところ

さて、ハムをあげるか。

Aくーん、ハム切れたよ。

えっ、ありがとう！

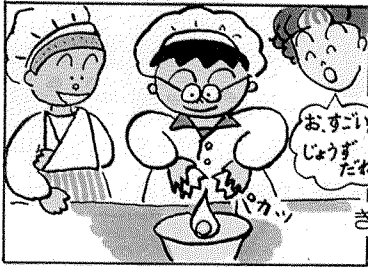
手段④ はっきりたのむ。

手段⑤ 歯で切ろうとする。

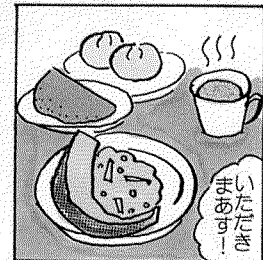
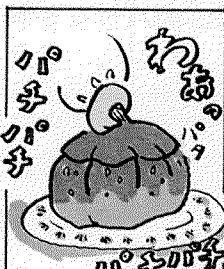
素材5

友だち3

友だちと自分とのかかわりを深めるA児②



自分と自分のかかわりを深めるA児



その日の日記

……たべてみたら
おいしかったです。
みんなのも
おいしいよと
思いました。

次の授業
友だちの料理の感想を
書いて友だちに渡す。

かぼちゃの
絵本に貼る。



まとめの苦手な
A児が、丁寧に
貼っていた。

ませるとき
ボールおぎて
くれてありがとう
C児より
まるごとの
かぼちゃ
サラダ
おいしいね。
F児より
Yくん
すごい
くふうだね
J児より
自分2

6 ねらいの評価

(1) 素材と自分 のかかわりを通して

- ・ A児はお姉さんが書いてくれたレシピの紙を何度も見ながら、作業を進めていた。自分で名付けた「かぼちゃのサラダやき」を完成させようという意欲が最後まで感じられた。
- ・ 電子レンジや「ゆで卵切り」など、初めての道具に興味を持って扱えた。包丁を使う時は自分で切り方を考えて工夫できた。

(2) 友だちと自分 のかかわりを通して

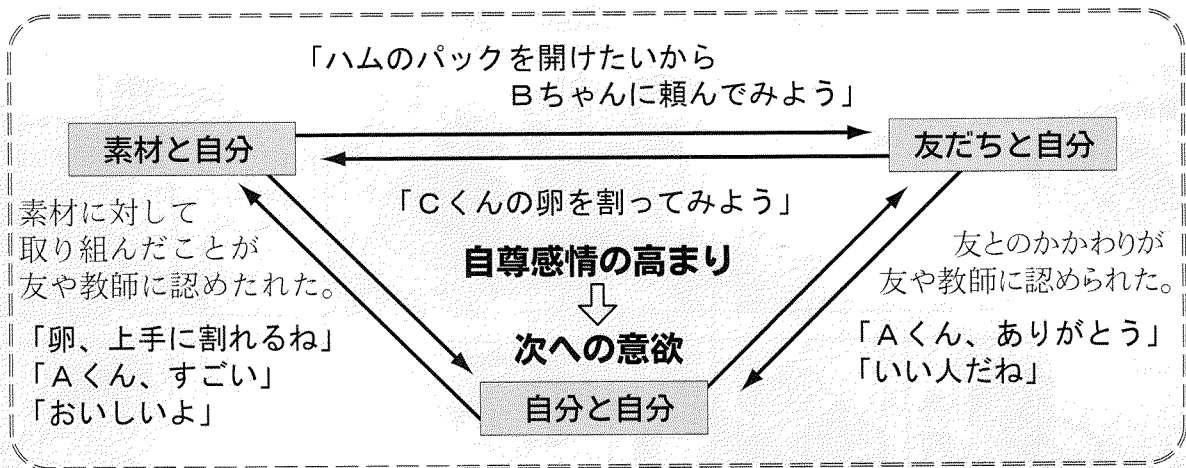
- ・ A児はハムのパックを開けたいと必死になり、試行錯誤の末B児に頼んだ。自分の願いを実現するために主体的に友だちとかかわることができた。
- ・ けがをして左手の不自由なC児の存在に気付き、次第に自分から力を貸すようになり、最後にC児の活動のよさに気付くことができた。この後の手紙の交換で、C児はA児に「まぜるとき、ボールおさえてくれてありがとう」と伝えている。この手紙をA児は丁寧に手作り絵本に貼っていた。友とかかわる喜びを感じられた体験になった。

(3) 自分と自分 のかかわりを通して

- ・ 仕上げや試食の場面で友だちに自分の活動を認められ、笑顔になった。友だちの評価が「かぼちゃサラダやき」を完成させた自分自身への評価につながった。

7 成果と課題

- ・ 本題材でのA児から、三つのかかわりが相互に関係し合ってA児の自尊感情を高める働きをしていることが分かった。



まず素材とのかかわりを深め、願いがふくらんできたところで、素材とじっくり向き合う活動を仕組む。その活動の中で小さな願いがいくつも出てきて、それを実現するために、素材や友達、教師とかかわっていく。実現した喜びがまた次の活動への意欲となって、かかわりが生まれる。こうした活動の積み重ねが、互いを認め合い、自分に自信の持てる集団づくりにつながっていく。

- ・ A児のとらえを踏まえ、今回は1回の活動で成功感を味わえるような支援をした。今後はA児の成長に合わせ、次の活動の課題につながるような困難や失敗も体験できるようにしていきたい。そして失敗を乗り越える体験を通して、自尊感情を高め、生きる力を育てていくようにしたい。